◆企画にあたって -

共同もこれまでにないほど進んだ。

共同もこれまでにないほど進んだ。

大変信の、権力の集中と濫用が一気に進み、他第二次安倍政権発足後は、憲法の蹂躙、戦争国家化、第二次安倍政権発足後は、憲法の蹂躙、戦争国家化、第二次安倍政権発足後は、憲法の蹂躙、戦争国家化、第二次安倍政権発足後は、憲法の蹂躙、戦争国家化、第三次安倍政権発足後は、憲法の蹂躙、戦争国家化、第三次安倍政権発出をいる。そして、この年七月の定時総会で震災・福島原発事故という空前の大規模災害・被害が震災・福島原発事故という空前の大規模災害・被害が震災・福島原発事故という空前の大規模災害・被害が震災・福島原発事故という空前の大規模災害・被害が震災・福島原発事故という空前の大規模災害・被害が震災・福島原発事故という空前の大規模災害・被害が

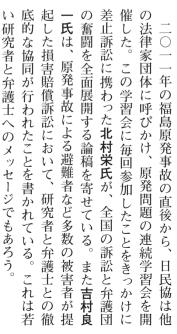
悪政・悪法に対峙する法律家運動もまた大きな広がりこうした情勢の中、次々に怒涛のように押し寄せる



た。「激動の一〇年」はまさに実感である。

を見せ、その中で日民協は少なくない役割を果たし

集としたものである。「激動の一○年の政治史と法律家運動」をメインの特治史と日本民主法律家協会の役割」を巻頭論文とし、治史と日本民主法律家協会の役割」を巻頭論文とし、記念号では、渡辺治氏の記念講演「激動の一○年の政記念号では、渡辺治氏の記念講演「激動の一○年の政



ク」が結成され、隔年で全国研究交流集会を開催する々なジャンルの団体・個人で「原発と人権ネットワーを見せる中、日民協の呼びかけで法律家のみならず様を見せる中、日民協の呼びかけで法律家のみならず様そして海部幸造氏は、原発反対運動が大きな広がり



のではないか、ということになった。

など粘り強 い活動を続けていることを紹介する。

とを補足しておく。 日比谷野音で数回の大集会を開く等の活動をしたこ 律家八団体が連絡会を作り、 対運動について論じる。 に進める法案を矢継ぎ早に成立させてきた。清水雅彦 デジタル監視法等々、監視社会と戦争準備法制を強力 の刑訴法・盗聴法改悪、一七年の共謀罪、二一年の 海渡雄一氏は、これら法律の危険性、違憲性、反 政権 は、 一三年の特定秘密保護法、 なお共謀罪反対運動では、法 国会対策や、 市民と共に 五~一六

文改憲阻止の運動である。 衛隊を明記する」との安倍改憲メッセージに始まる明 立後はその廃止運動、 る安保法制 (「戦争法」) 反対運動、 四年七月の集団的自衛権行使容認の閣議決定に始ま 動の ○年の政治史」の中心は、 そして一七年五月の 一五年九月の法案成 何といっても 「憲法に自

京子氏の論稿をじっくりお読みいただきたい。 **]体)で奮闘した南典男氏と同連絡会事務局長の大江** その中で法律家運動が果たした役割は計り知れな その詳細は、改憲問題対策法律家6団体連絡会(6

そのために払った努力の内容を明らかにしている。 影響力を持つまでに至ったのである。二人の論稿は な役割を果たした。 6団体の活動は「安倍改憲」 阻止に間違いなく重要 法律家の共同行動が現実の政治に

桜」)など露骨な国政の私物化及び行政文書の廃棄、 二〇年八月まで続いた安倍政権は、「森友学園問題 .題」、「桜を見る会問題」(総称 また政府は、 ーモリ・カケ・ 政権に近い









稿をお読みいただきたい。 **寺義象氏**、検察庁法改正阻止については**島田広氏**の論 の約千名の法律家の安倍首相刑事告発については小野 題については上脇博之氏、「桜を見る会前夜祭 ても法律家・法律家運動は奮闘した。主に森友学園問 世 する検察庁法改正法案を上程したが、 人物を検事総長や検事長に長くとどめることを可能に **論の反対により廃案となった。これらの問題につ** 同法案は圧倒的 」問題で

る情報公開請求については、 題点と、任命拒否に抗議する一〇六二名の法律家によ 命を拒否するという前代未聞の暴挙を行った。 日、学術会議が推薦した会員候補者のうち六名の なお、二〇年九月に発足した菅政権は、 福田護氏の論稿に詳し 同年 その問 \bigcirc 任 月

す貴重な記録としてお読みいただきたい。 の特集を世に送った。澤藤統一郎氏の論稿は時代を映 民』は憲法の象徴天皇制を厳格に解する立場で、 派による天皇賛美という複雑な事態も起こった。『法 ○年の間 には、 明仁天皇の生前退位とリベラ 间

間に一〇回開催し、二〇一九年には第五〇回を迎えた。 法制度研究集会」を開催し続けており、この一○年の 回 日民協は一九六八年から司法問題をテーマとする「司 「のテーマと内容の記録は**米倉洋子**が執筆した。

律家の記録として、特に、未来を担う法律家の方々に てお読みいただき、「激動の一○年」を懸命に生きた法 務局長等の言葉、多くの方々のメッセージ等とあわせ 一かでもお役に立てれば幸いである。 ないが、 どの論稿も、 渡辺講演、 紙幅の制約のため到底語り尽くせては 座談会、年表、 歴代理事長・事

(『法と民主主義』 編集委員会・前事務局長 米倉洋子)